

第1部 わかやまの貴重な動植物

1. 選定の考え方

(1) 対象種

県内域に生息・生育する陸産、淡水産及び汽水・海岸産の野生動植物とする。ただし、原則として外来種リストの掲載種及び評価対象となる種については除外する。

(2) 選定基準

次の選定基準に基づき、候補種の抽出を行った。

- ① 環境省レッドデータブック・レッドリストに掲載されている種
- ② 人為的影響により絶滅の危機に瀕しているか、その危険が増大している種
(既に絶滅となった種も含む)
- ③ 和歌山県内で産地数、個体数が少ないと思われる種
- ④ 和歌山県が分布の限界となっている種
- ⑤ 紀伊半島の固有種
- ⑥ 全国的に見て特異な分布を示す種
- ⑧ ごく限られた生息環境に生息する種

2. カテゴリーの設定

原則的には環境省のレッドリストカテゴリー(2020)に準拠するが、前回改訂と同様に、和歌山県独自に「学術的重要」のカテゴリーを設け、学術的に貴重な種を掲載することとした。

なお、定量的要件は共通事項から除くこととしたが、鳥類及び植物において可能な種は、定量的な要件についても導入した。

選定基準により抽出された種のうち、次に示すカテゴリーの定義に基づき、「生物多様性と和歌山戦略推進調査会」での検討を重ね、選定した結果を和歌山県における保全上重要な野生生物として位置づけた。

動植物のカテゴリー定義

●絶滅

県内ではすでに絶滅したと考えられる種 (Extinct : EX)

過去に県内に生息、生育していたことが確認されているが、現在では既に絶滅したと考えられる種 (野生絶滅 (EW) を含む)

●絶滅危惧 I 類

絶滅の危機に瀕している種 (Critically Endangered : CR+EN)

現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの

★確実な情報があるもの

- (1) 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している
- (2) 既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している
- (3) 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている
- (4) ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している

★情報量の少ないもの

- (5) それほど遠くない過去 (30~50年) の生息記録以後、確認情報がなく、その後、信頼すべ

き調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの	
<p>●絶滅危惧ⅠA類</p> <p>ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの (Critically Endangered : CR)</p>	<p>●絶滅危惧ⅠB類</p> <p>ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの (Endangered : EN)</p>
<p>★鳥類</p> <p>(1) 県内に10羽未満しか生息しない</p> <p>(2) 個体数が概ね1980年代と比較して10分の1以下に減少した</p> <p>(3) 生息可能な面積が県内の極めて小面積にしかないと判断される</p> <p>以上の要件のうち、2つ以上該当する種及び個体数が急激に減少し、近年ほとんど生息確認ができていないもの</p> <p>★植物</p> <p>生育地が過度に分断されているか、ただ1箇所地点に限定されている</p>	<p>絶滅危惧Ⅰ類に該当するが、絶滅危惧ⅠA類の要件は満たさないもの</p>
<p>●絶滅危惧Ⅱ類</p> <p>絶滅の危機が増大している種 (Vulnerable : VU)</p>	
<p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」の категорияに移行すると考えられるもの</p> <p>(1) 大部分の個体群で、個体数が大幅に減少している</p> <p>(2) 大部分の生息地で、生息条件が明らかに悪化しつつある</p> <p>(3) 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている</p> <p>(4) 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している</p>	
<p>●準絶滅危惧</p> <p>存続基盤が脆弱な種 (Near Threatened : NT)</p>	
<p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位 categoria 一に移行する要素を有するもの</p>	
<p>●情報不足</p> <p>評価するだけの情報が不足している種 (Data Deficient : DD)</p>	
<p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧の categoria 一に移行し得る属性 (具体的には次のいずれかの要素) を有しているが、生息状況をはじめとして、 categoria 一を判定するに足る情報が得られていない種</p> <p>(1) どの生息地においても生息密度が低く希少である</p> <p>(2) 生息地が局限されている</p> <p>(3) 生息地理上、孤立した分布特性を有する</p> <p>(4) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている</p>	
<p>●学術的重要</p> <p>分布または生態等の特性において学術的に価値を有する種 (Scientifically Important : SI)</p>	
<p>次のいずれかに該当するもの</p> <p>(1) 和歌山県が分布の限界となっているもの</p> <p>(2) 紀伊半島に固有のもの</p> <p>(3) 他の生息域から地理的に隔離されているもの</p>	

- (4) 生態または形態が特異なもの
 (5) 保護すべき繁殖コロニー（鳥類）

3. 動植物分類群別の掲載数

『和歌山県レッドデータブック』における動植物の掲載種数、カテゴリーの内訳を選定結果一覧表に示した。

『和歌山県レッドデータブック 2022年改訂版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー							合計
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	SI	
哺乳類	3	5		6	9	3		26
鳥類		7	8	17	22	2	2	58
爬虫類					3	2		5
両生類	1	2		1	9	2		15
魚類	3	15		10	15	30	5	78
昆虫類	13	24		40	102	27	37	243
貝類	6	43		65	117	8	40	279
その他無脊椎動物	1	2		3	33	80	17	136
菌類		3		10	18	37		68
植物（維管束植物）	22	151	207	116	85	14		595
植物（蘚苔類）		39		37	50	26		152
合計	49	506		305	463	231	101	1,655

【参考1】『和歌山県レッドデータブック 2012年改訂版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー							合計
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	SI	
哺乳類	2	4		5	7	4		22
鳥類		5	10	17	19		2	53
爬虫類					2	1		3
両生類	1	3		1	9	1		15
淡水魚類	1	10		11	12	9	5	48
昆虫類	14	22		44	92	11	31	214
陸産貝類・淡水産貝類		11		11	5	3	21	51
植物	21	144	205	111	83	4		568
合計	39	414		200	229	33	59	974

【参考 2】『和歌山県レッドデータブック 2001 年版』選定結果一覧表

分類群	カテゴリー								
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	SI	LP	合計
哺乳類	2	1		1	3	4	4		15
鳥類		5	7	15	23			2	52
爬虫類					1	1	1		3
両生類		1		2	7		1		11
淡水魚類	2	1		4	7	8	8		30
昆虫類	12	20		40	61	2	46		181
陸産貝類・淡水産貝類	1	3		2	6	2	24		38
植物	18	101	177	128	87	16			527
合計	35	316		192	195	33	84	2	857

凡例) EX：絶滅 NT：準絶滅危惧
 CR：絶滅危惧 I A 類 DD：情報不足
 EN：絶滅危惧 I B 類 SI：学術的重要
 VU：絶滅危惧 II 類 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

※CR と EN を区分しない場合は、「CR+EN：絶滅危惧 I 類」というカテゴリーとする。

※『和歌山県レッドデータブック 2012 年改訂版』以降では、「絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)」のカテゴリーは廃止した。

4. 掲載種等の解説

分類群ごとの掲載種の解説は次のとおりとした。

オオカミ	1	和歌山県カテゴリー	
<i>Canis lupus</i> Linnaeus, 1758	1	絶滅 (EX)	3
食肉目 イヌ科	2	旧県 2012 絶滅 (EX)	4
選定理由	6	国 絶滅 (EX)	5
参考文献・情報	7		

〈解説凡例〉

1	標準和名・学名	標準和名及び学名を記載した。動物の学名には命名者及び記載年、植物及び菌類の学名には命名者のみを記載した。
2	分類	動物は目名及び科名、植物及び菌類は科名を記載した。ただし、その他無脊椎動物は門名から記載した。
	カテゴリー	次に該当するカテゴリーを記載した。
3	和歌山県カテゴリー	『和歌山県レッドデータブック2022年改訂版』でのカテゴリーを記載した。
4	旧県	『和歌山県レッドデータブック2012年改訂版』のカテゴリーを記載

		した。
5	国	環境省レッドリスト（2020）の categories を記載した。
6	選定理由	種の概要、分布状況（市町村単位を基本とする）、学術的価値等について記載した。
7	参考文献・情報	<p>参考文献・情報について記載した。</p> <p>【参考文献】</p> <p><論文></p> <p>著者名. 発行年. 論文名. 論文の掲載誌名, 巻数: ページ数.</p> <p><書籍></p> <p>著者名. 発行年. 編集者名. 書名. ページ数. 発行社名, 発行地名.</p> <p>【情報】</p> <p>情報発信者名. 私信.</p> <p>【写真】</p> <p>提供者名あるいは撮影者名（注釈）</p>